

^ 5
1527

安海
巻

利
1.527



櫻川朝陽舍別園掛額台

早子花





根之本序

天十七 照月

地之英代志

人之習之

梅我

杉成

松下

桂雲

四弟女

Handwritten text in vertical columns, including the characters '梅我', '杉成', '松下', '桂雲', and '四弟女'.

Bottom section of handwritten text on the left page.

小葉庵評

天十七 雜鶴

地之妻女

人之葉秋

梅我

照月

葉雲

宜月

Main handwritten text in vertical columns on the right page.

Bottom section of handwritten text on the right page.

何れも行かぬものか義のたふしは高士の山 藤吉 花渡 交因

旭産作

天^十玉里 地^十三妻女 人^九二葉
九^九箱之 一^九川 茶山 二^九葉 灰水
妻山女 花柳 雜丸 二^九葉 柳文

西五葉の歌

水まゝを捨てて... 六^九の歌
六^九の歌
十六下
星屋

星精梅評

天^十北年 地^十東園 人^九全梅評
三^九妻女 三^九後 女^九香 妻^九安 全^九葉
陵園 京^九良 妻^九全 照^九月 全^九

西五葉の歌

温石ハ石... 子^九香 女^九香 妻^九安 全^九葉
子^九香 女^九香 妻^九安 全^九葉
子^九香 女^九香 妻^九安 全^九葉

成田山永代奉額面句合

芳雅いづらぬ梅のつらき
 花のつらき梅のつらき
 花のつらき梅のつらき

補曲

芳雅いづらぬ梅のつらき
 花のつらき梅のつらき
 花のつらき梅のつらき

紫秋
 西田
 北雪
 翠山

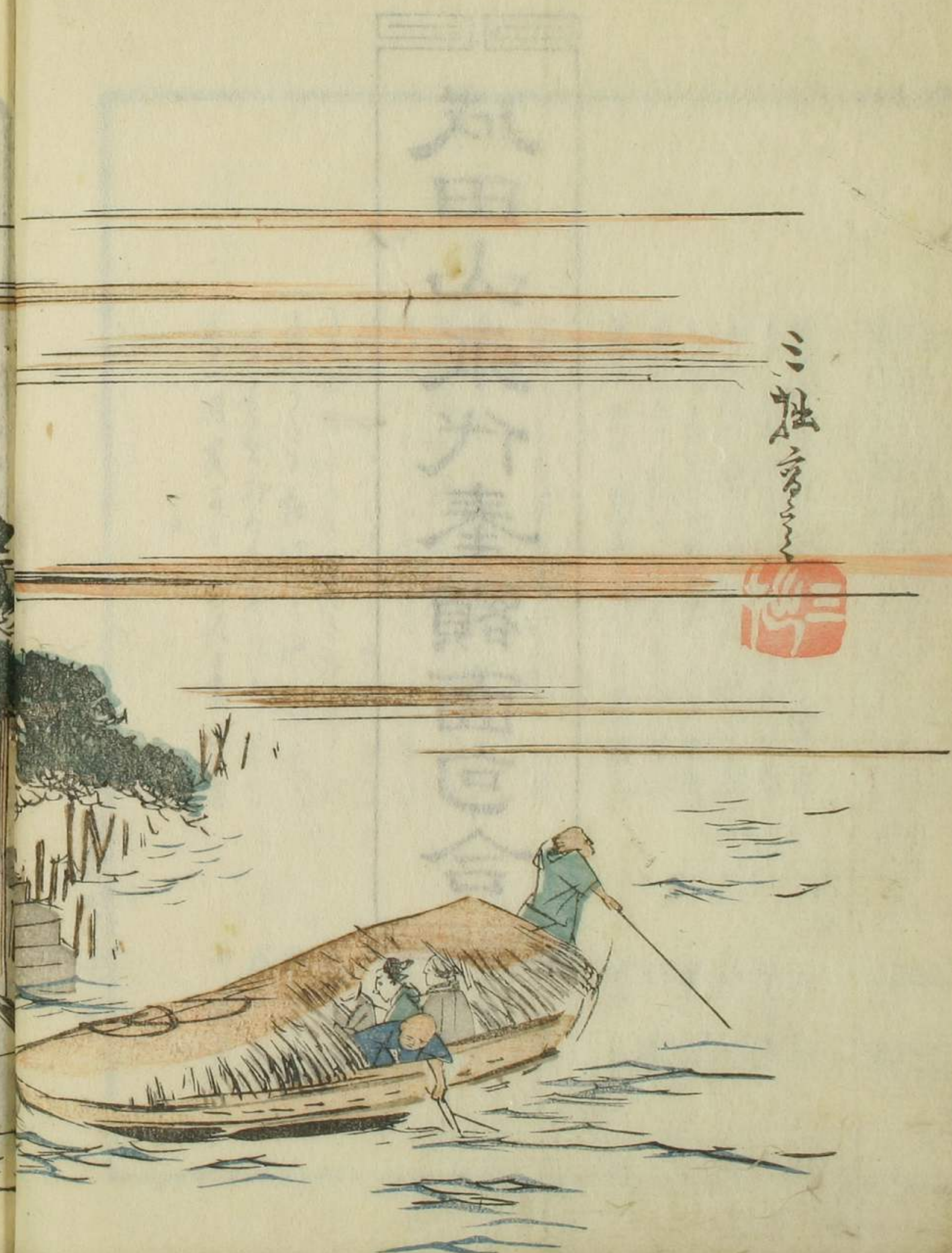
樂々々々々々々々々々

催主

一葉

ゆりくと月の陰をうけたり上
 月の園も帰るに松を拂い
 花のつらき梅のつらき
 花のつらき梅のつらき

紫秋
 西田
 北雪
 翠山
 招き
 小葉



三
杜
言
三



閏月彦祥 伊勢女子

折々
彦祥の自筆の書は、伊勢女子の書に似て、筆致は流麗で、文字は整然と書かれている。内容は、彦祥の書簡や日記の断片と思われる。右側に「折々」とあり、断片的な文章が書かれている。下部には「伊勢女子」とあり、その書名や著者名が記されている。

東茶金評 彦祥 伊勢女子

彦祥の自筆の書は、東茶金評の断片と思われる。内容は、茶の淹れ方や茶の淹れ道具に関する評述が書かれている。下部には「彦祥」とあり、その著者名が記されている。右側の「伊勢女子」は、この断片が彦祥の書に由来していることを示している。

雅堂彦祥 彦祥 伊勢女子

彦祥の自筆の書は、雅堂彦祥の書に由来している。内容は、彦祥の書簡や日記の断片と思われる。下部には「彦祥」とあり、その著者名が記されている。右側の「伊勢女子」は、この断片が彦祥の書に由来していることを示している。

台点

天

〇五五〇

志野女子

地

〇五九

徳遊

〇

空窓

春

〇五九

志野女子

地

〇五九

徳遊

〇

空窓

如栄

〇五九

志野女子

地

〇五九

徳遊

〇

空窓

新

〇五九

志野女子

地

〇五九

徳遊

〇

空窓

新

〇五九

志野女子

地

〇五九

徳遊

〇

空窓

新

〇五九

志野女子

地

〇五九

徳遊

〇

空窓

新

〇五九

志野女子

地

〇五九

徳遊

〇

空窓

新

〇五九

志野女子

地

〇五九

徳遊

〇

空窓

新

〇五九

志野女子

地

〇五九

徳遊

〇

空窓

新

〇五九

志野女子

地

〇五九

徳遊

〇

空窓

新

〇五九

志野女子

地

〇五九

徳遊

〇

空窓

新

〇五九

志野女子

地

〇五九

徳遊

〇

空窓

志野女子

如栄

徳遊

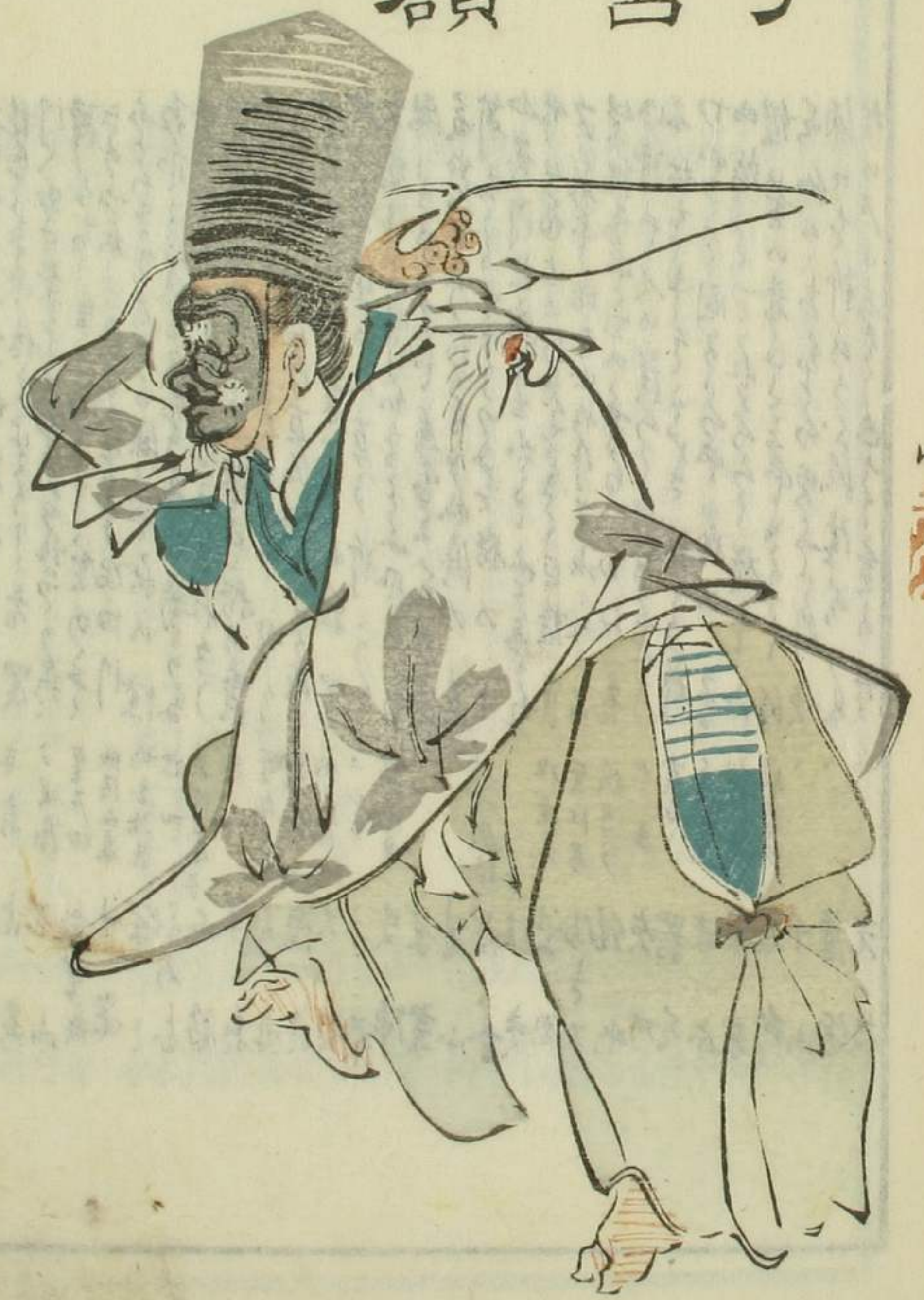
空窓

志野女子

惟子虎仔
天吉田二見
地田田花田
人早程格
お五岩 十七点
お五岩 十五点
黙高安原丸 枝推
如栄 田川

天吉田二見
地田田花田
人早程格
お五岩 十七点
お五岩 十五点
黙高安原丸 枝推
如栄 田川

龜戸 天満宮 永代奉額 句合



通計一万二千三百余章



南亭 齋

乙巳の初秋

梅の生きたさうり本を世に
 痛きう子にけり成る意痛く
 痛き意より障の意を痛く
 意より意を痛く天乃
 障をく世にけり成る意痛く
 意より意を痛く天乃

旭 本 子
 企 友 子
 利 志 一
 惟 子 一

七草番園集

元

翁連



一名番作
茶字之如以
再卷

弘化二年乙巳春夏

板形表

中町二丁目

今井幸吉文

六

天 ^廿 柳堂	地 ^九 草堂	人 ^六 一
天 ^廿 菊堂	映 ^湖 舍 ^永 里	耕 ^高 雀 ^架 三 ^省
天 ^廿 甘 ^栎	地 ^廿 觀 ^雀	人 ^廿 折 ^枝 女
天 ^廿 甘 ^栎	映 ^湖 舍 ^梅 自	探 ^芝 殿 ^里 改 ^丸
天 ^廿 甘 ^栎	地 ^廿 白 ^林	人 ^十 七 ^菱 光
天 ^廿 甘 ^栎	芳 ^仙 振 ^布	梅 ^旭 石 ^明 何 ^折
天 ^廿 甘 ^栎	地 ^廿 梧 ^成	人 ^吉 可 ^休
天 ^廿 甘 ^栎	地 ^廿 了 ^如	照 ^亭 甘 ^字 井 ^山
天 ^廿 甘 ^栎	地 ^廿 月 ^惠	人 ^七 映 ^湖 舍
天 ^廿 甘 ^栎	桂 ^木 五 ^車 漆	因 ^久 井 ^茶
天 ^廿 甘 ^栎	地 ^廿 双 ^芝	人 ^十 九 ^近 水
天 ^廿 甘 ^栎	地 ^廿 函 ^女	勢 ^我 梅 ^木 堂 ^園

舌代

右上げ様ゆゑの取舞う居りし下も余連より物故友隣も
大さふ心引付はは用捨の心通る於七草花名集五接
引はき二編お権いさお替りは出有草集

字のあやとよきれ無くあつたま
喉を枯らしたるをなうを

校 花遊亭芝好
川風舎万春

著るを日付届きより世接子
地を這うて秋意さるるを

子松亭種丸
大葉園風意

よきはるを唯しは中當りは
柳をさうて落吹伏を川意

合 新善園白種
春笑亭霞山

よりけの白萩の帯は河より
○

一筆改

此はふおれはあつたまの秋
字のあやとよきれ無くあつたま

金葉舎光朝
悟祝堂歌行

七草華園集

祖^{おきな}翁^{おきな}古^{ふる}他^たの^の吟^{ぎん}より^{より}以^{もつ}来^{きた}都^{みやこ}郡^{ぐん}と^と正^{ただ}風^{かぜ}を^をん^んと^と止^{とど}ま^ます^す予^{われ}の
其^{その}後^{のち}は^は然^{しか}り^りと^と是^{こゝ}に^に遊^{あそ}ぶ^ぶを^をい^いは^はす^すま^まよ^より^り不^ふ学^{がく}類^{るい}才^{さい}より^{より}一^{ひと}毛^げも^もふ^ふは^はら^らり^り不^ふ能^{ぞう}に^に或^{ある}日^ひ友^{とも}人^{ひと}来^{きた}り^りて^て云^いふ^ふ不^ふ可^か也^{なり}也^{なり}は^は此^{こゝ}に^に
其^{その}評^{ひやう}の^の非^ひを^を擧^あげ^げる^るも^も又^{また}世^よに^に流^{なが}れ^れて^ては^はい^いは^はす^すま^まよ^より^り不^ふ能^{ぞう}に^に或^{ある}日^ひ友^{とも}人^{ひと}来^{きた}り^りて^て云^いふ^ふ不^ふ可^か也^{なり}也^{なり}は^は此^{こゝ}に^に
い^いは^はす^すま^まよ^より^り不^ふ能^{ぞう}に^に或^{ある}日^ひ友^{とも}人^{ひと}来^{きた}り^りて^て云^いふ^ふ不^ふ可^か也^{なり}也^{なり}は^は此^{こゝ}に^に
終^{つひ}に^にわ^わら^らひ^ひ予^{われ}お^おれ^れを^を疎^そと^とも^もを^を笑^{わら}ひ^ひの^の種^{たね}と^とあ^あへ^へん^んの^の水^{みづ}の^の中^{なか}に^に捨^すて^てお^おけ^け
せ^せの^の後^{のち}予^{われ}の^の非^ひを^を擧^あげ^げる^るも^も又^{また}世^よに^に流^{なが}れ^れて^ては^はい^いは^はす^すま^まよ^より^り不^ふ能^{ぞう}に^に或^{ある}日^ひ友^{とも}人^{ひと}来^{きた}り^りて^て云^いふ^ふ不^ふ可^か也^{なり}也^{なり}は^は此^{こゝ}に^に
か^かの^のあ^あら^らし^しむ^むを^を知^しり^り予^{われ}思^{おも}つ^つて^ては^はい^いは^はす^すま^まよ^より^り不^ふ能^{ぞう}に^に或^{ある}日^ひ友^{とも}人^{ひと}来^{きた}り^りて^て云^いふ^ふ不^ふ可^か也^{なり}也^{なり}は^は此^{こゝ}に^に
く^くの^のあ^あら^らし^しむ^むを^を知^しり^り予^{われ}思^{おも}つ^つて^ては^はい^いは^はす^すま^まよ^より^り不^ふ能^{ぞう}に^に或^{ある}日^ひ友^{とも}人^{ひと}来^{きた}り^りて^て云^いふ^ふ不^ふ可^か也^{なり}也^{なり}は^は此^{こゝ}に^に
う^うの^のあ^あら^らし^しむ^むを^を知^しり^り予^{われ}思^{おも}つ^つて^ては^はい^いは^はす^すま^まよ^より^り不^ふ能^{ぞう}に^に或^{ある}日^ひ友^{とも}人^{ひと}来^{きた}り^りて^て云^いふ^ふ不^ふ可^か也^{なり}也^{なり}は^は此^{こゝ}に^に

乙巳仲秋

翁連發 大垣園東園画 元翁号

天○中○種丸

地○中○種丸

人○生○水○形○羽

外 種丸 五砂 朴山 把兼 要松

○五印
 正月廿一日
 二月廿一日
 三月廿一日
 四月廿一日
 五月廿一日
 六月廿一日
 七月廿一日
 八月廿一日
 九月廿一日
 十月廿一日
 十一月廿一日
 十二月廿一日

孝一 鹿 撰

天○中○種丸

地○中○種丸

人○生○水○形○羽

外 種丸 五砂 朴山 把兼 要松

○五印
 正月廿一日
 二月廿一日
 三月廿一日
 四月廿一日
 五月廿一日
 六月廿一日
 七月廿一日
 八月廿一日
 九月廿一日
 十月廿一日
 十一月廿一日
 十二月廿一日

○五印
 正月廿一日
 二月廿一日
 三月廿一日
 四月廿一日
 五月廿一日
 六月廿一日
 七月廿一日
 八月廿一日
 九月廿一日
 十月廿一日
 十一月廿一日
 十二月廿一日

下年人 芭橋 小半 柳監 五明
茶葉 空廣 泰山 柳監 泰山

田日尾橋 天 赤地 地 紫山 人 五明
松池 鶴仙 如喬 行勇 信子
松葉 泰山 有南 厚堅 古新

天如水 泰山 地 柳園 五升 松園
松のこゝろ 泰山 柳のこゝろ 松のこゝろ
松のこゝろ 泰山 柳のこゝろ 松のこゝろ

松のこゝろ 泰山 柳のこゝろ 松のこゝろ
松のこゝろ 泰山 柳のこゝろ 松のこゝろ
松のこゝろ 泰山 柳のこゝろ 松のこゝろ

松のこゝろ 泰山 柳のこゝろ 松のこゝろ
松のこゝろ 泰山 柳のこゝろ 松のこゝろ
松のこゝろ 泰山 柳のこゝろ 松のこゝろ

松のこゝろ 泰山 柳のこゝろ 松のこゝろ
松のこゝろ 泰山 柳のこゝろ 松のこゝろ
松のこゝろ 泰山 柳のこゝろ 松のこゝろ

松のこゝろ 泰山 柳のこゝろ 松のこゝろ
松のこゝろ 泰山 柳のこゝろ 松のこゝろ
松のこゝろ 泰山 柳のこゝろ 松のこゝろ



出於松而雪堤長

弘化之雨亦五月有卦入乃於青葉卷尾并卷

何新風集書亦十卷略

小篆卷字通代

方園高先生雅

天^{十五}可梅歌

地^{十五}多解

人^{十七}怪岳

閑月庵宗道雅

天^五第有

地^五第

人^五善江

翁之本先生制

天^{十七}第高

地^{十五}呼聲

人^五梅自

鏡月庵先生制

天^{又五}文○

地^{又五}克夕

人^{又五}子梅自

柳風堂先生制

天^{十二}柳風

地^{十七}玉自

人^{十四}初良

梅葉軒先生制

天^五其山

地^五地春

人^五柳香

是佛庵先生制

天^{十六}呼名

地^三呼名

人^{十五}呼名

八景堂通雅

天^五百度

地^五謝曉

人^四青葉尾

開成敏月望子志浮

天皇皇 東本 地 〇五石山 人 〇五七和品

此書は... 敏月望子志浮... 開成... 敏月望子志浮... 開成... 敏月望子志浮... 開成...

性字 度 不 通 辨 把 菜 地 成 松 人 葉 海

把 菜 地 成 松 人 葉 海 把 菜 地 成 松 人 葉 海

操 字 度 不 通 辨

了 双 芝 地 成 松 人 葉 海

此書は... 操字度不... 通辨... 操字度不... 通辨...

把 菜 地 成 松 人 葉 海 把 菜 地 成 松 人 葉 海

把 菜 地 成 松 人 葉 海 把 菜 地 成 松 人 葉 海

把 菜 地 成 松 人 葉 海 把 菜 地 成 松 人 葉 海

池之端毎々天
 境内朽木屋
 近江屋雨茶亭
 横之廻廊白合

通計

二千二百家

旭産



七條北馬... 由... 山... 石山
 定... 由... 石山
 根... 根... 根...
 月... 月... 月...
 甲友 性州 月星 後田松 根... 石山

江山車車記撰

七 序

橋あふの粒はあややや野の草茶
夢うらやうの草の粒はあやや
茶のあやや川筋又はあやや
茶をりやうと茶をりやうと茶をり

コシガヤ

南巴江 江
川空月 月

福芝齋の夢遊

七 序

舟を江の隈に寄る一睡の夢
ぬくぬくとあややありあり山笑
あやや川筋又はあやや川筋
豆人のあやや解さず柳うれ
あやや夢のあやや切さずしむか

折向社

ス キ

江 南
江 南
江 南
江 南

華仙子丁知撰

六 序

立ま度し多あやうらやあや
あやうらやあやあやあやあや
あやうらやあやあやあやあや
あやうらやあやあやあやあや
あやうらやあやあやあやあや
あやうらやあやあやあやあや
あやうらやあやあやあやあや
あやうらやあやあやあやあや

巴 月

雀齋の起撰

六 序

あやうらやあやあやあやあや
あやうらやあやあやあやあや
あやうらやあやあやあやあや
あやうらやあやあやあやあや
あやうらやあやあやあやあや
あやうらやあやあやあやあや
あやうらやあやあやあやあや
あやうらやあやあやあやあや

江 南 江 南 江 南 江 南
江 南 江 南 江 南 江 南
江 南 江 南 江 南 江 南
江 南 江 南 江 南 江 南

関内度山院選

松平重基一節
其書也... 関内度山院選

新倉社

岩月

第一橋 江江江村里
峯峯 堂月洲嶺堂水

東月庵宗雅表様

松平内少輔一節
其書也... 東月庵宗雅表様

南玄正 南玄正
川江 川江

碓氷居風齋表様

松平内少輔一節
其書也... 碓氷居風齋表様

知知養里 知知養里
堂堂 堂堂

多少葺鬼古様

松平内少輔一節
其書也... 多少葺鬼古様

如全江曲楚 如全江曲楚
橋有江門 橋有江門

乃々菴素月様

松平内少輔一節
其書也... 乃々菴素月様

冥井屋餘喜 冥井屋餘喜
女穿水折世 女穿水折世

止水軒巴曲様

松平内少輔一節
其書也... 止水軒巴曲様

巴 鼓和江江正折
堂 汀舟有陸坡枝

惟孝尾家出権

七印

ては... 惟孝... 尾家... 出権... 七印... 惟孝尾家出権... 七印... 惟孝尾家出権... 七印...

軍持園茶推撰

十印

植木... 軍持園茶推撰... 十印... 植木... 軍持園茶推撰... 十印...

吳景



浮きの八幡のつらあし、吉川、桂、越、山
 町、新、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 故、千、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 多、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 海、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 桂、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 手、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 押、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 焚、の、つらあし、吉川、桂、越、山

公樹園を遊覧

湖、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 松、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 石、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 芝、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 桂、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 竹、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 ハ、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 夕、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 行、の、つらあし、吉川、桂、越、山

湖、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 松、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 石、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 芝、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 桂、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 竹、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 ハ、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 夕、の、つらあし、吉川、桂、越、山
 行、の、つらあし、吉川、桂、越、山



是嶺 (Red seal impression)

秋空庵坐坐雅撰並歌

川風也涼
四の常子切はる 涼川
涼 二の月 秋 秋 秋

涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋

雅歌在風之雅撰並

涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋

涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋

檀 七の月 秋 秋 秋

地子付々涼き夏の折は 二の月、涼ん
夏 七の月 秋 秋 秋
夏 七の月 秋 秋 秋



秋之涼星の雅撰並

涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋

涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋

涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋

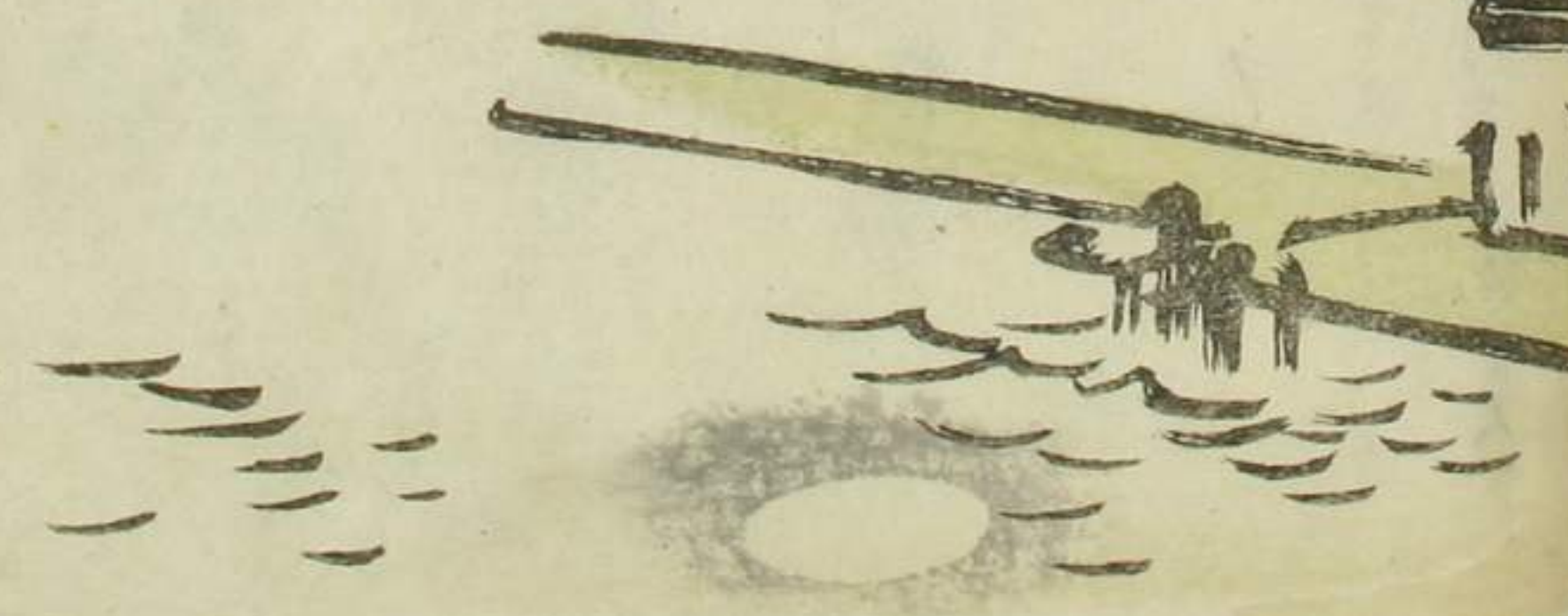
涼 七の月 秋 秋 秋

涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋

涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋

涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋

涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋
涼 七の月 秋 秋 秋



本所二
之橋
相摸家
樓懸
頌



惟	天 _{中五} 船月	地 _{中五} 麟藩	人 _{中五} 涓翠	孝交	中一	菊清	貞女	貞九
深	天 _{中五} 桃府	地 _{中五} 香山	人 _{中五} 秀晓	嘉	梅里	露也	栢祥	中五女
公	天 _{中五} 孝晓	地 _{中五} 千古	人 _{中五} 贞莱	新系	溪静	和孝	山世	孝交
日	天 _{中五} 終九	地 _{中五} 山礎	人 _{中五} 岳磨	玉素	山有	空	山礎	之味
志	天 _{中五} 尔当	地 _{中五} 改孝	人 _{中五} 樂高	嵐和	寬眉	玉素	稻在	桃悦
着	天 _{中五} 松巴	地 _{中五} 右堂	人 _{中五} 松月	之味	不玉	改孝	形九	高女
每	天 _{中五} 三味	地 _{中五} 立	人 _{中五} 溪静	中五	之味	海山	梅高	右堂
新	天 _{中五} 和孝	地 _{中五} 栢祥	人 _{中五} 長山					
確	天 _{中五} 栢枝	地 _{中五} 栢堂	人 _{中五} 信雅					
檀	天 _{中五} 尔丸	地 _{中五} 栢堂	人 _{中五} 岳人					
梅	天 _{中五} 尔步	地 _{中五} 琴路	人 _{中五} 高介					
月	天 _{中五} 贞女	地 _{中五} 善路	人 _{中五} 嬉樂					
雀	天 _{中五} 黄金	地 _{中五} 高山	人 _{中五} 三光					

弘化四年の誕生

句貞一子余余章

彫工 杉田大助
栢師 菱屋善次郎

惟叶庵评 天^{五六十} 南^五 地^{五六十} 五^五 芝 人^五 李^五 仙

李仙 松花 花有 渴翠 蒲团 李仙 定陶 日并

重叶庵评 天^{五十七} 皇^七 地^{五十七} 文^二 人^余 群^二 人

李仙 松花 李仙 李仙 李仙 李仙 李仙 李仙

孙善周评 天^{七十一} 新^二 地^{七十一} 垂^二 家 人^{七十一} 南^二 里

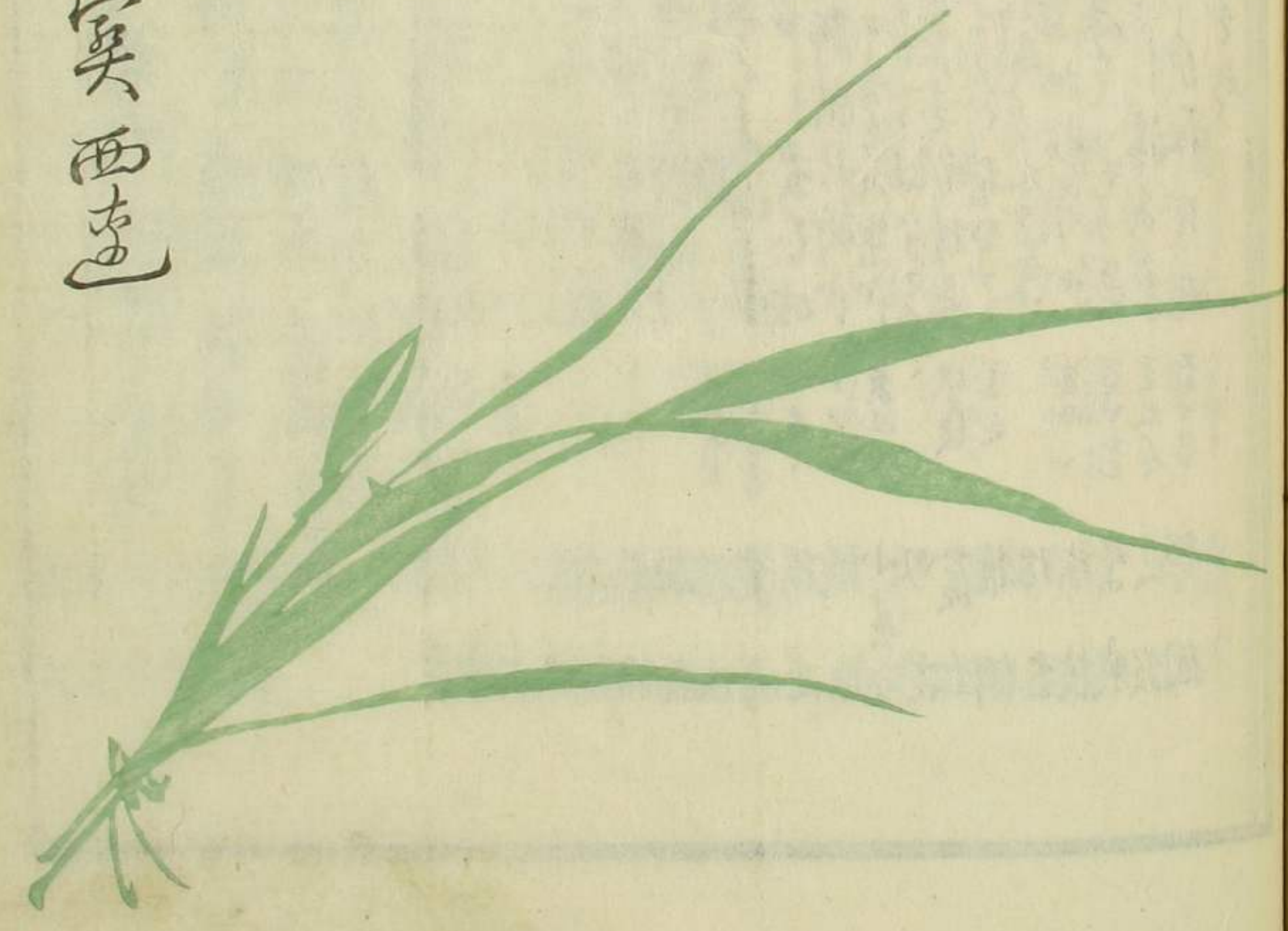
李仙 松花 李仙 李仙 李仙 李仙 李仙 李仙

子曰庵评 天^二 文^二 地^二 斗^二 外 人^二 文^二

李月庵评 天^二 海^二 地^二 文^二 人^二 花^二 粉

樓田右左連門卑
洛室樓之懸款
其夏勺合

冥西連



梅香... 松... 風...

梅西京子枝女伴

天母草山 地母山好 人曰草好 嵩丹 野雀 石山 松盛 草儂 青雲

秀色七印之秋

多... 本... 夕... 岸... 咲... 山... 付... 今... 志...

年花当日序之冠坐

瑶草庵評

天 田舟 地 佳月 人 双芝

好西... 秀色大畏... 佳月

海... 吾... 昔... 志... 而... 家... ぬ... 一... 風... 牧... 所... 了...

授命

佳... 白... 梅... 松... 志...

惟孝尾家近撰

天中花咲

地中花名

人立花名

番名

月星

善哉

大乃

子秀

笑月

撰出たての... 惟孝尾家近撰
 天中花咲 地中花名 人立花名
 番名 月星 善哉 大乃 子秀 笑月
 撰出たての... 惟孝尾家近撰
 天中花咲 地中花名 人立花名
 番名 月星 善哉 大乃 子秀 笑月
 撰出たての... 惟孝尾家近撰
 天中花咲 地中花名 人立花名
 番名 月星 善哉 大乃 子秀 笑月

青葉尾家近撰

天中花咲

地中花名

人立花名

関江波文

大笑 善哉 大乃 子秀 笑月
 撰出たての... 青葉尾家近撰
 天中花咲 地中花名 人立花名
 番名 月星 善哉 大乃 子秀 笑月
 撰出たての... 青葉尾家近撰
 天中花咲 地中花名 人立花名
 番名 月星 善哉 大乃 子秀 笑月

関江波子編女子

天中花咲

地中花名

人立花名

沈水 瓶種 沼翠 大乃 魚水
 撰出たての... 関江波子編女子
 天中花咲 地中花名 人立花名
 番名 月星 善哉 大乃 子秀 笑月
 撰出たての... 関江波子編女子
 天中花咲 地中花名 人立花名
 番名 月星 善哉 大乃 子秀 笑月

昇巻あり毎歌

八葉家近撰

地中花名

人立花名

撰出たての... 八葉家近撰
 地中花名 人立花名
 撰出たての... 八葉家近撰
 地中花名 人立花名

惟字

見之初

古の法

言根

有は

著

初標を

門へ

家督

村中

買物

おろ

以つ

物

雲 漳



惟字産撰

七

相植て秋風を名き小産やヨト
 懶て子新燈も名きや鳴雀
 桐さうも名き秋風を名き所
 岩多きも名き秋風を名き所
 楓も名き秋風を名き所
 紅梅も名き秋風を名き所
 物洗も名き秋風を名き所
 川も名き秋風を名き所
 相も名き秋風を名き所
 川も名き秋風を名き所
 聖も名き秋風を名き所
 朝朝も名き秋風を名き所
 秋も名き秋風を名き所

兩國約と免橋

寿留賀屋

樓上

う針額



東都



東都全井製

友山中よりくる人よる 九折

城之眼を望みし世にや花のふ

初雪に花の初雪にさるる花のふ

大和路の中より出たる旅人

川魚の好む料理はなまなま

繁るは暖簾もふりて来たる

飛ぶ鳥の来り去りての空は

○

○

大和路の中より

往來する日や晴る

人柄も又いふ事

古きよき茶の味

弘化丁末冬

寿史

栢丸

栢丸

栢丸

栢丸

栢丸

栢丸

栢丸

栢丸

栢丸

栢丸

栢丸

栢丸

栢丸

惟料産惟字撰

僅主

兼香
兵契

一雪美入逃

手修くそ若きかたう空の暮
染くるはかと移りけり皆名は空
空ふぬと常寂き林火のうれ
降控すけりけり此の産の空
炭やまもを於て出ぬゆき雪小

人

狐兜
夜里
在里
吹翠
鬼の仏

あつる和や雪き浦うそ雪のま

地

雑樹

月も子遊ふてあや雪ん人

天

紅林

あつ川の葉はいつくまのりる雪

〇

白兒女

雪をまの和のちり合や雪の香

惟竹

一樹園道直撰

月秀逸

后の月露け出て文字より
久月や一もちあきし清和

人

葩堂
三味

月たりの先をみやる和のそ

地

六出

十六和の向をまのりる産出す

〇

鬼の仏

久月や山の和子くら白和とそ

〇

離里

世の中や義理も月子門の

道直

白江改
藤島鬼の伝説

むきくろくまの世

市人トよき衣着をう初まらう
をばあやちきれたらあむの重
茶畑のふくまはえんや花の奥
ささりのきぢのまきうけ初接

人

ちくまのけし服のまきうけ

地

初まの藤心ゆん人界を吉

了

まの花やちくまのまきうけ

あり植う初あつうやまきう

合点法天十九点伝 龍堂

白児女

永住

洪五

猛序

桂露

龍堂

一字

鬼の伝

所蔵
金
印

櫻田の左衛門

むかし屋

樓上

一の斗額

一葉集

瑞州

關西連



大平のきき降しつゝつて九まり
陸の折子柳うのふよとて色ん
屋内や子り一車なき柳子のき
きあう比見のき程のきりし子

中をさう子流し柳の地をりき

三

三

石田 舟
右 甚

あざん人そ七をき候しそ
屋の折子流しつゝつて九まり
あふ北葉やえつ子何事争候の上
唐積り中そ内をきて十折候
明しとあ七葉を海のきりき

石田 舟
右 甚

山の中をりきつゝつて九まり
唐積り中そ内をきて十折候
明しとあ七葉を海のきりき

石田 舟
右 甚

人の子をりきつゝつて九まり
唐積り中そ内をきて十折候
明しとあ七葉を海のきりき

石田 舟
右 甚

四の市翁社承代年款由合

惟州産登

天喜

地

人

松

小の産の種殺つてつて九まり
あふ北葉やえつ子何事争候の上
唐積り中そ内をきて十折候
明しとあ七葉を海のきりき

松
右 甚

松

天喜

地

人

松

六月の産の種殺つてつて九まり
あふ北葉やえつ子何事争候の上
唐積り中そ内をきて十折候
明しとあ七葉を海のきりき

松
右 甚

ハ

天喜

地

人

松

地をりきつゝつて九まり
あふ北葉やえつ子何事争候の上
唐積り中そ内をきて十折候
明しとあ七葉を海のきりき

松
右 甚

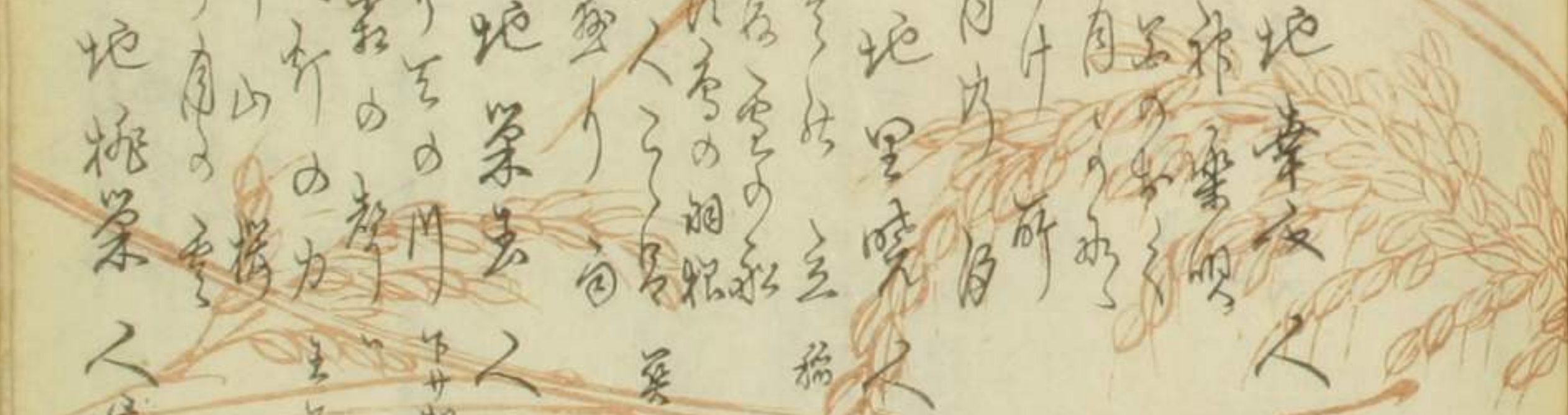
松

天喜

地

人

松



淺草駒形
觀音堂
永代奉額
白合

南二



通計八千五百余章



相色本條

天章七

地味

人

鳥

魚

楷城古のむのひのーこれの如
ノ出〜おこのむを帰 都を
支の〜々々々々々々々々々々々
雲の〜々々々々々々々々々々々
晴の〜々々々々々々々々々々々
相色本條 天章七 地味 人 鳥 魚

家 古
晴 以 鳥
第 以 鳥
林 以 鳥
養 以 鳥
葉 以 鳥
葉 以 鳥
晴 以 鳥
里 以 鳥
小 以 鳥
魚 以 鳥
魚 以 鳥
古 以 鳥
古 以 鳥
樹 以 鳥

永代奉額

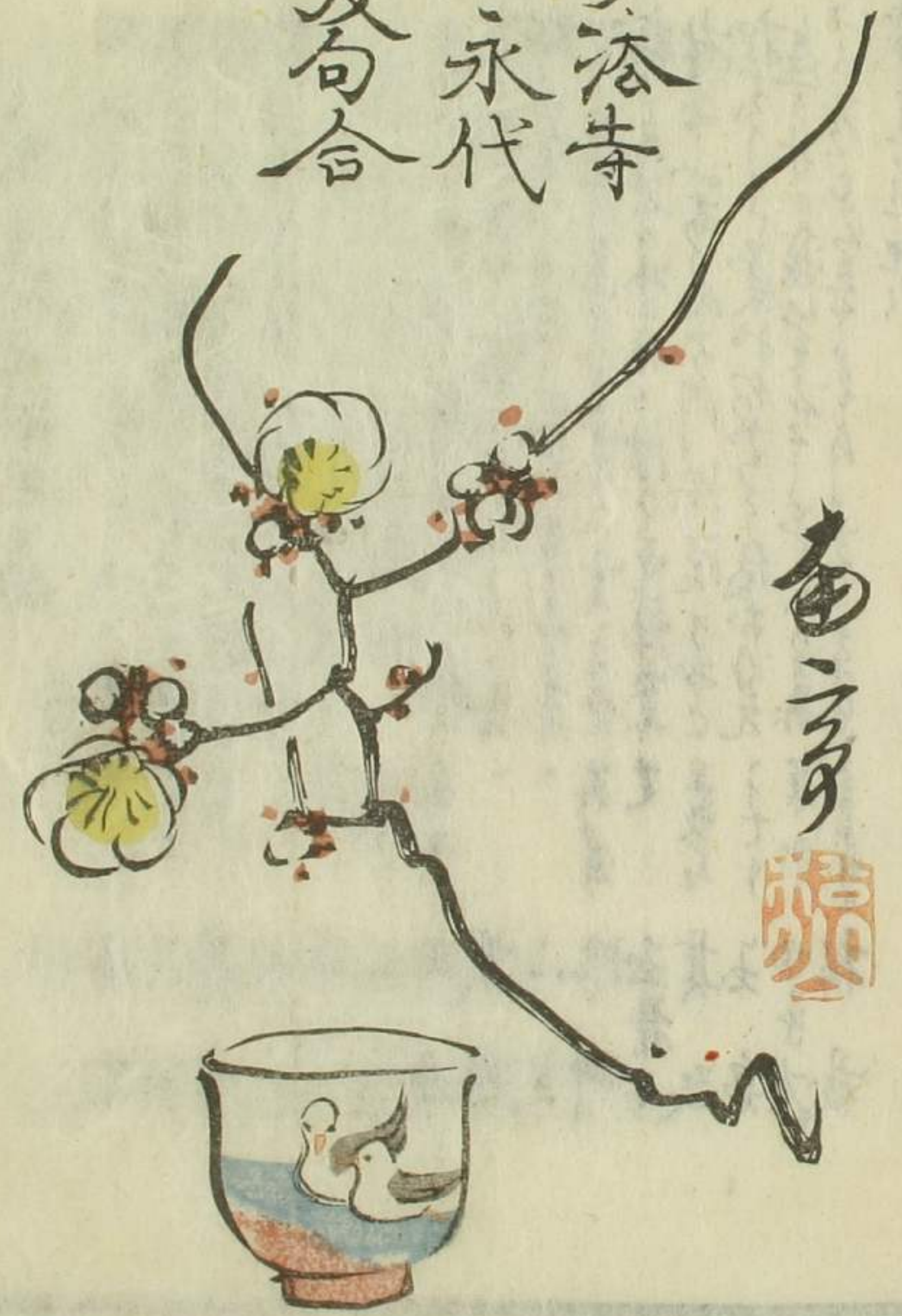
人者... 唯... 乃... 撰...
下... 由... 考...
山... 考...
山... 考...
山... 考...

秀... 乃... 撰...
下... 由... 考...
山... 考...
山... 考...
山... 考...

双雀尾沼翠蝶

秀... 乃... 撰...
下... 由... 考...
山... 考...
山... 考...
山... 考...

堀之内妙法寺
 祖師堂永代
 奉額幾句合



南亭



關西連



春のしづかきてあけの浦の雪
 影の夕日 雲の
 月 雲の
 影の夕日 雲の
 月 雲の

鰲月庵評 天^{三〇} 松丸 地^五 一水 人^{三〇} 一の雪

春のしづかきてあけの浦の雪
 影の夕日 雲の
 月 雲の
 影の夕日 雲の
 月 雲の

姚花庵評 天^〇 月 地^一 一人 留丸

春のしづかきてあけの浦の雪
 影の夕日 雲の
 月 雲の
 影の夕日 雲の
 月 雲の

真月齋評 天^{六五} 蒼海 地^五 一の雪 人^五 大乃

春のしづかきてあけの浦の雪
 影の夕日 雲の
 月 雲の
 影の夕日 雲の
 月 雲の

春のしづかきてあけの浦の雪
 影の夕日 雲の
 月 雲の
 影の夕日 雲の
 月 雲の

東兩國
湯屋
掛額

企
藤成



三
 一羽をとりて
 舟にのりて
 舟にのりて
 舟にのりて

三

ついでに
 舟にのりて
 舟にのりて
 舟にのりて

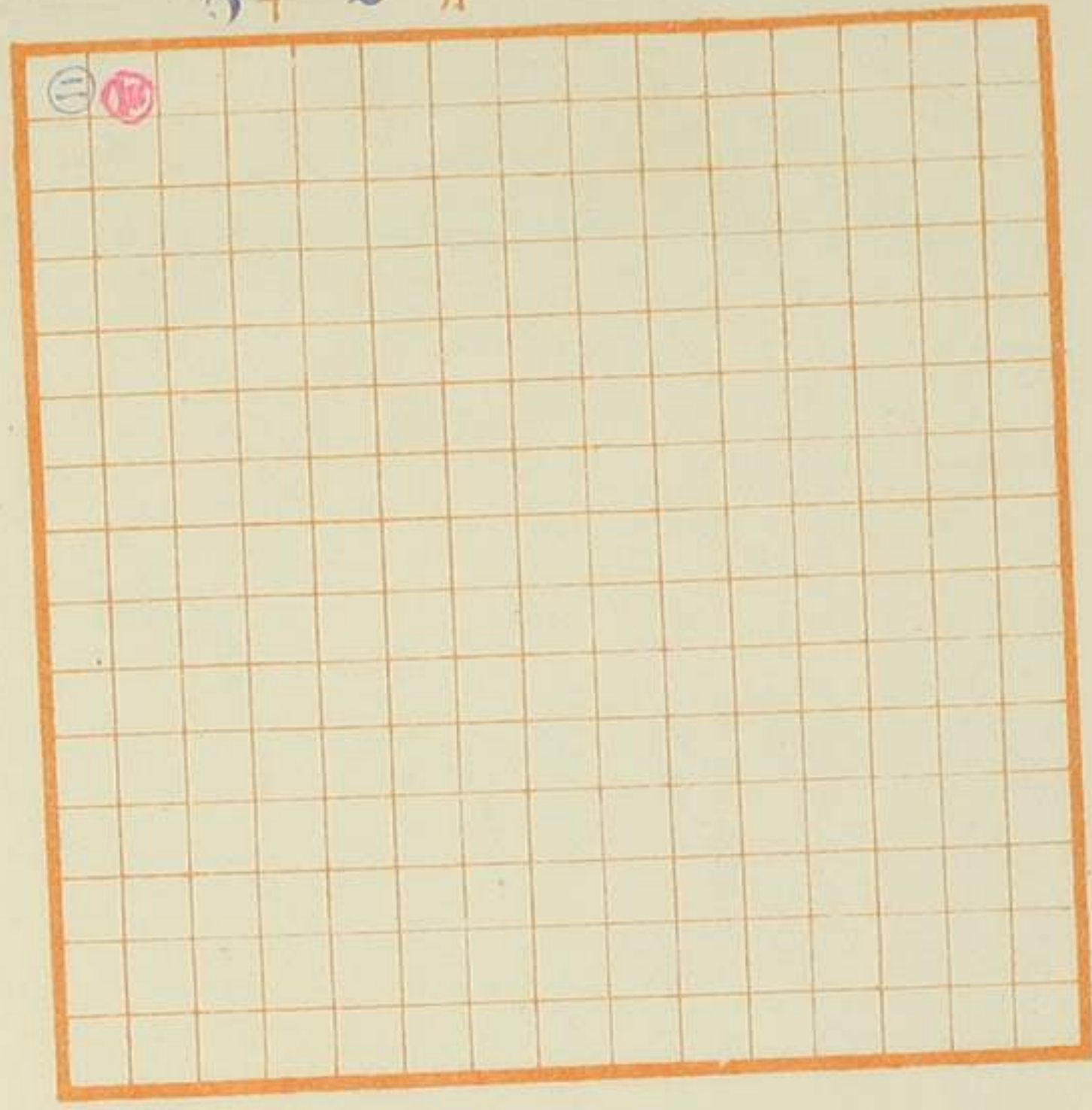
舟にのりて
 舟にのりて
 舟にのりて
 舟にのりて

舟にのりて
 舟にのりて
 舟にのりて
 舟にのりて

舟にのりて
 舟にのりて
 舟にのりて
 舟にのりて

舟にのりて

5年2月



Faint, illegible handwritten text in cursive script, possibly bleed-through from the reverse side of the page, located within a light blue rectangular border.

永年二月自藏

生禮之

探之者

把家花



永年司自藏

生禮之

探之卷

把家花

Faint, illegible text within a rectangular border on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

